

集落活動センターの推進について

1. 平成28年度の取り組み状況

ア ロールモデルの確立と普及

- ・集落活動センター推進事業費補助金による支援
平成28年度執行見込み 202,609千円（20市町村 28件）
- ・推進チーム会等の開催
杉苗及び特用林産7回（現地研修会含む）、集落営農（7地域）等

イ 経済活動拡充に向けた人材の育成・確保

- ・集落活動センター推進アドバイザーの派遣
平成28年度活用実績
アドバイザー活用4回
実践活動アドバイザー活用14回
ファシリテーター活用4回

- ・集落活動センター研修会の実施8回
- ・高知ふるさと応援隊研修会の実施5回

ウ 集落活動センターのネットワークづくり

- ・集落活動センター連絡協議会の設立（6/3）、推進フォーラムの開催（2/7）

☆県内各地域への着実な広がり（H28年度末、38カ所で立ち上げ）

☆経済活動の活性化（農家食堂・Cafe「イチョウノキ」開設（津野町 郷） 来客数：約1,900人、農業法人設立によるシシトウ栽培（三原村））

2. 課題

★量的拡大

さらなる広がりに向けた新たな候補地の掘り起こしや住民活動の活性化に早急に取り組む必要

★質的向上

経済活動拡充に向けた人材の育成・確保や集落活動センターのネットワークの充実が必要

3. 平成29年度の取り組み方針・進め方

☆さらなる掘り起こし

ア 新たな掘り起こしのための事業の創設・拡充

- ・集落の活力づくり支援事業費補助金の創設
- ・集落活動センター推進事業費補助金の拡充

イ 市町村とのさらなる連携強化

ウ 成功事例の発信

- ・県民の関心を引く年間を通じた広報活動
- ・ポータルサイト「えいところうち」の充実 など

☆活動の継続と拡充に向けた後押し

ア 事業支援

- ・集落活動センター推進事業費補助金の活用
- ・産業振興計画との連携強化

イ 人材育成・確保

- ・集落活動センターテーマ別研修の充実

ウ 集落活動センターのネットワークづくり

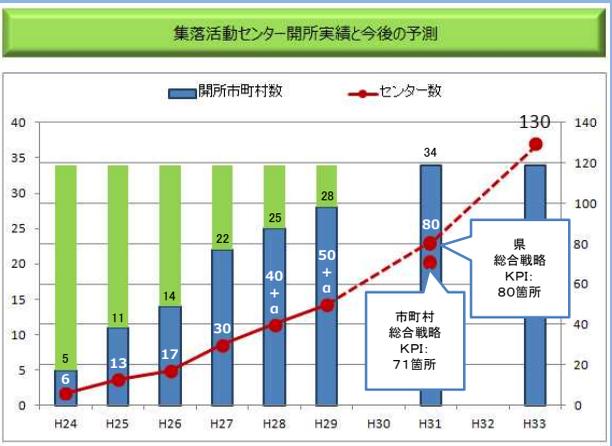
- ・集落活動センター連絡協議会への支援
- ・エリア別情報交換会などの開催

集落活動センターを核とした集落の維持・再生の仕組みづくり

これまでの取り組み(成果)

【量的拡大】

○県内各地域への着実な広がり



【質的向上】

- 経済活動の活性化
 - ・チムシルバン・レストラン来客数：H27年度3,548人 (H27.3 オープン、栲原町初瀬)
 - ・農家食堂・Cafe「イチョウキ」来客数：約1,900人 (H28.11未現在) (H28.5 オープン 土・日・祝日営業、津野町郷)
 - ・汗見川ふれあいの郷清流館宿泊者数：H27年度983人 (H26年度948人、本山町汗見川)
 - ・やまびこカフェ営業日数：週6日営業 (H28.4 開業時週1日、三原村)
 - ・西川花祭り来場者数：H28.3 約12,000人 (H27.3 約6,000人、香南市西川) など

- 産業振興計画と連携した取り組みの本格化
 - ・農業法人設立によるシトウ栽培 (三原村)
 - ・杉苗の栽培 (大豊町西峯)
 - ・特用林産(マイタケ)の栽培 (いの町上本川)
 - ・森の教習所 (土佐町石原) など

- 支え合いの仕組みの充実
 - ・四万川給油所利用者数：H27年度10,586人 (H26年度9,780人、栲原町四万川)
 - ・地域の支え合いによる葬祭事業の実施 (四万十市大宮) など
- 集落の維持 (選ばれる地域に)
 - ・人口増加地区：柳野 ・若年人口増加地区：大宮
 - ・集落活動センター開所地区人口減少率：△3.9%
 - 所在市町村平均：△4.3%
 - (平成26年度まで開所17地区 住基ベース：H26→H28)

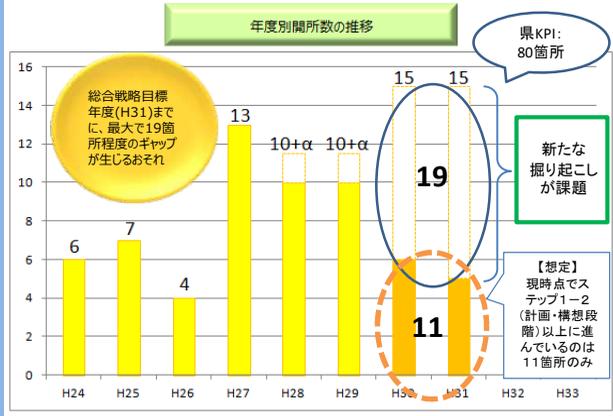
【下支えの取り組み】

- 集落活動センターの取り組みへの理解度の向上
 - ・パンフレットの作成・配布：8,000部
 - ・その他PR活動の強化：
 - 広報番組や中心商店街でのPR、ポータルサイトの運営等
- センターのネットワークづくりと人材育成・確保
 - ・連絡協議会の発足：センター間の相互交流の活発化
 - ・事業計画作成研修：連絡協議会と県の共催で実施
 - ・アドバイザーの活用：28回派遣

課題

【量的拡大】

・当面(H29年度まで)は10箇所+αで立ち上がる見通しであるが、さらなる広がりに向けた、新たな掘り起こしが必要



- 立ち上げには時間を要するため、新たな候補地掘り起こしや住民活動の活性化に早急に取り組むことが必要
- 幅広い層に対しセンターの機能や効果、成功事例を一層周知していくことが必要

◆取り組み検討段階の市町村 → ◇政策レベルでの協議を丁寧に行う

◆機運の醸成が期待される地域 → ◇わかり易い成功事例の紹介

◆センターを周知できていない地域 → ◇興味を呼び起こす情報の発信

【質的向上】

・多様な背景・活動に応じたきめ細かな支援の徹底が必要

- 経営の視点を活動に生かす
 - ・キャッシュフローを意識した事業計画の策定
 - ・法人化によるメリットの認知
 - ・生活支援事業においても事業の継続性の意識
- 人材の育成・確保 ※人口20,161人、世帯数9,724世帯、高齢化率43.7% (30センターの合計、高齢化率は人口による加重平均値)
 - ・新たな活動に対応できる人材の育成が急務
 - ・地域アクションプランに関わる地域の事業者等とのネットワークの構築が重要
 - ・提案型の外部人材確保の取り組みの検討

- 多様な活動に対応したアドバイザーのさらなる活用
- 連絡協議会の活動の充実

方向性



I さらなる掘り起こし



II 活動の継続と拡充に向けた後押し



H29年度の取り組み

掘り起こし

- 新たな掘り起こしのための事業の創設・拡充
 - 集落の活力づくり支援事業費補助金
 - 住民が主体となって取り組む集落の活性化や、経済活動の推進などに係る経費を支援
 - 集落活動活性化事業：補助率定額 (限度額500千円)
 - 集落の活力づくり支援事業：補助率1/2以内 (限度額10,000千円)
 - 集落活動センター推進事業費補助金
 - 人材導入活用事業の補助対象時期の前倒し (開所1年前の制限を無くす)
- 市町村とのさらなる連携強化
 - 中間対策に係る市町村長との個別の意見交換を定例化
- 成功事例の発信
 - 産業振興計画と連携した取り組み事例の周知
 - 県民の関心を引く年間を通じた広報活動
 - ・女性をメインターゲットに、「食」の情報を絡めて発信
 - 加工品情報・農家レストラン探索マップの新規作成
 - 集落活動センターパンフレットの作成・配布
 - 中心商店街での特産品販売・PR活動 (H27年度1回、H28年度6回(H28.12未現在))
 - ポータルサイト「えいとこうち」の充実
 - 広報番組 (広報広聴課枠) の放映
- 集落活動センター講演会・フォーラムの実施 (6月・2月)

拡充・確立

- 事業支援
 - 集落活動センター推進事業費補助金 (再掲)
 - ・整備事業、人材導入活用事業、経済活動拡充支援事業 (総額223,132千円(29地区)、うち経済活動拡充支援事業21,594千円)
 - 産業振興計画との連携強化
 - ・集落営農、複合経営拠点
 - ・特用林産物の活用 (シキミ・サカキ、マイタケ等)
 - ・遊漁・体験漁業、志国高知幕末維新博 等との連携
- 人材育成・確保
 - 集落活動センターテーマ別研修の充実
 - ・事業計画、財務、法人化等のテーマで開催
 - アドバイザーの派遣
 - ・事業計画具体化の支援を強化 (28回→46回)
 - 集落活動センター事務局 (高知ふるさと応援隊) 研修の実施
 - 研修に関するコンシェルジュ機能の強化
 - ・研修後の相談窓口を設置
- 集落活動センターのネットワークづくり
 - 集落活動センター推進事業費補助金 (再掲)
 - ・集落活動センター連絡協議会支援事業をメニューに追加
 - エリア別情報交換会などの開催

■集落活動センターの取り組みの強化等により、誰もが愛着のある地域で暮らし続けられる地域をつくる

■さらなる周知と新たな地域の掘り起こしにより、集落活動センターの取り組みを県内全域に広げる